

氏名（本籍）	青 野 真 弓	（神奈川県）
学 位 の 種 類	博 士（医学）	
学位授与番号	甲第 1218 号	
学位授与日付	令和 5 年 2 月 15 日	
学位授与要件	学位規則第 4 条第 1 項該当	
学位論文題目	Do Programme Coordinators Contribute to the Professional Development of Residents? An Exploratory Study	
審 査 委 員	（主査）教授	千田 隆夫
	（副査）教授	塚田 敬義 教授 永田 知里

論文内容の要旨

【背景・目的】

医師臨床研修制度をはじめとした医療専門職の研修プログラムにおいて、臨床研修事務担当者（プログラムコーディネーター：以下コーディネーター）は様々な役割を担っているが、研修医の専門的な能力開発のための教育支援に関する役割については、これまであまり認識されてこなかった。また、海外においては、コーディネーターは近年専門職として認知され、果たすべき業務（Job Description）や研修制度も整備されつつあるが、日本においてはコーディネーターの役割や資格に関する検討はほとんどなされていない。コーディネーターは管理・運営面で重要な役割を果たすだけでなく、研修期間を通じて研修医と直接関わり、研修医が直面する様々な問題に対処していることから、一種の教育的役割を果たしていると推測されるが、詳細な分析は行われていない。

本研究の目的は、コーディネーターが研修医の専門職としての成長に対して、どのような教育的役割を果たしているかを、Cruise らが提唱した専門職のアイデンティティ形成（Professional Identity Formation: PIF）を理論的枠組みとして質的に分析することである。

【対象・方法】

対象：日本国内の臨床研修病院 315 施設に在籍するコーディネーターを対象とした。

方法：コーディネーターに対して半構造化ウェブアンケートを実施し、コーディネーターが経験した研修医の問題点とその支援事例について匿名化して詳細な記述を求めた（研修医の性別、研修医に生じた問題点、問題に対するコーディネーターの対応、対応後の結果、コーディネーターとしての振り返り等）。記述された事例は PIF に関係する 7 つの社会化要因（1. 指導医、2. 臨床経験、3. 研修医の自己評価、4. 研修環境、5. 研修医の個人的問題、6. 家族・友人からの独立、7. 同僚との関係性）を理論的枠組みとして、主題分析法を用いて分析した。共同研究者全員でコンセンサスが得られるまで議論して最終的な主題を抽出した。本研究は岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会の承認を得て実施し、研究参加者には事前に文書により説明し同意を得た。

【結果】

31 名のコーディネーターから同意が得られ、39 例の研修医の支援事例を収集した結果、以下のようなコーディネーターの教育的役割が明らかになった。1. 指導医：指導医と研修医の関係性が悪化する場合は、両者を仲介して指導法の再考を求める。2. 臨床経験：つらい臨床経験をした研修医に対して、その悪影響から研修医を守る。3. 研修医の自己評価：自信が持てない研修医を安心させ練習機会を提供する。4. 研修環境：過重労働の軽減に努め、研修医の自主性を尊重し、安全な学習環

境を作る。5. 研修医の個人的問題：5-1. メンタルヘルスの問題を抱える研修医を早期に見出し、精神的に安心な研修環境を整える。5-2. 社会性の乏しい研修医，専門職として相応しくないアンプロフェッショナルな行動をとる研修医に対して教育的に介入する。6. 家族・友人からの独立：独立が順調に行かず問題を抱えた研修医をサポートする。7. 同僚との関係性：同僚との人間関係が悪化する兆候が認められる場合は，コミュニケーションを促しトラブルを未然に防ぐ。支援の頻度としては5が最も多く（16例），次いで6，7（各6例），1，3（各4例）であった。

【考察】

本研究はコーディネーターの教育的役割を調査・分析した最初の研究であり，本研究により，コーディネーターが事務管理だけでなく，研修医の成長・アイデンティティ形成（PIF）の面でも重要な役割を担える可能性があることが明らかとなった。今後は，これらをコーディネーターの役割として認識し，追加していく必要があると考えられる。

結果で示されたコーディネーターの役割に共通しているのは，以下に述べる事務担当者ならではの4つの資質に基づいていると考えられる。1) 研修医との非階層的（水平的）な関係性：指導医と研修医の上下関係は往々にして問題発生の原因となるが，事務担当者が非階層的な関係性で助言することが有効となる。2) 研修医の保護者的な存在：研修医はメンタルヘルス，社会性の未熟さ，家族からの独立など，社会人としての成長途上にあり，親身になって世話をし，保護してくれるコーディネーターは保護者のような存在となりうる。3) 研修医の微細な変化を敏感に察知する能力：研修医のメンタルヘルスの状態，職場の人間関係，研修に対する不安・不満や自信のなさなどは，目まぐるしい研修ローテーションの中で見過ごされやすいが，研修期間を通じて接するコーディネーターは，研修医の微細な表情の変化を早期に察知し問題解決に結びつけることが可能な場合がある。4) 一般市民としての感覚：社会人としての研修医の成長を一般市民の感覚で評価し，問題点を医療職より敏感に察知して効果的に介入することが可能である。

本研究はコーディネーターの教育的役割と業務の見直しにつながる重要な情報を提供するものであり，コーディネーターの能力開発プログラムの改善にも役立つと思われる。

【結論】

本研究は，研修医の専門的能力の成長とアイデンティティ形成に資するコーディネーターの7つの教育的役割を明らかにした。またコーディネーターにとって重要と思われる4つの資質を考察した。本研究は，コーディネーターの役割を再定義し，能力開発を促進するためのエビデンスを提供するものである。

論文審査の結果の要旨

申請者 青野真弓は，医師臨床研修施設におけるプログラム・コーディネーターの教育的役割を調査・分析するために，全国のコーディネーターを対象に半構造化ウェブアンケートを実施し，研修医に対する39例の支援事例の報告を得た。これをアイデンティティ形成（Professional Identity Formation: PIF）の理論的枠組みとして質的に分析し，コーディネーターの7つの教育的役割を明らかにした。また，コーディネーターにとって重要と思われる4つの資質を考察した。本研究は，医師の初期研修のコーディネーターの役割を再定義し，その能力開発を促進するためのエビデンスを提供するものであり，医学教育学の発展に少なからず寄与するものと認める。

〔主論文公表誌〕

Mayumi Aono, Haruo Obara, Chihiro Kawakami, Rintaro Imafuku, Takuya Saiki, Michael A. Barone, Yasuyuki Suzuki. Do Programme Coordinators Contribute to the Professional Development of Residents? An Exploratory Study

BMC Medical Education **22**, 381 (2022). <https://doi.org/10.1186/s12909-022-03447-y>.